

# 2012年3月期決算

- |                     |          |
|---------------------|----------|
| 1. 2011年度 連結業績ハイライト | … ① ～ ③  |
| 2. 決算短信[IFRS]       |          |
| 3. 添付資料             | … 1 ～ 14 |

住友商事株式会社

# 2011年度 連結業績ハイライト

2012年5月7日

【 国際会計基準 】

住友商事株式会社

## 1. 経営成績

単位: 億円 (億円未満四捨五入)

	当期 (2011年度)		前期 (2010年度)	増減		当期実績の概要																																																
	第4四半期 (2012/1-3)			金額	増減率																																																	
売上総利益	9,188	2,233	8,640	548	6%	≪売上総利益≫ ・ホリビア銀・亜鉛・鉛事業 好調(資源・化学品) ・タンジュン・ジャティB電力事業 増益(インフラ) ・自動車・建機事業 堅調(輸送機・建機) ・住宅分譲事業 好調(生活産業・建設不動産) ・CSK子会社化(メディア・ライフスタイル)  ≪販売費及び一般管理費≫ ・CSK子会社化  ≪持分法による投資利益≫ ・鉄鉱石事業 好調  ≪有価証券損益≫ ・パリュウ実現等あり																																																
販売費及び一般管理費 (内、貸倒引当金繰入額)	△ 6,864	△ 1,864	△ 6,607	△ 257	△ 4%																																																	
利息収支	△ 151	△ 25	△ 181	30	17%																																																	
受取配当金	112	20	100	12	12%																																																	
持分法による投資利益	1,106	282	956	150	16%																																																	
有価証券損益	148	△ 132	95	53	56%																																																	
固定資産損益	△ 90	△ 76	△ 176	87	49%																																																	
その他の損益	△ 36	△ 46	△ 22	△ 14	△ 64%																																																	
税引前利益	3,414	392	2,805	609	22%																																																	
法人所得税費用	△ 777	△ 70	△ 707	△ 70	△ 10%																																																	
当期利益	2,637	322	2,098	539	26%	<参考> 四半期推移 当期利益(親会社の所有者に帰属) (単位: 億円) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">2010年度</th> <th colspan="4">2011年度</th> </tr> <tr> <th>1Q</th> <th>2Q</th> <th>3Q</th> <th>4Q</th> <th>1Q</th> <th>2Q</th> <th>3Q</th> <th>4Q</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>614</td> <td>503</td> <td>673</td> <td>212</td> <td>836</td> <td>679</td> <td>676</td> <td>316</td> </tr> </tbody> </table> 基礎収益 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="4">2010年度</th> <th colspan="4">2011年度</th> </tr> <tr> <th>1Q</th> <th>2Q</th> <th>3Q</th> <th>4Q</th> <th>1Q</th> <th>2Q</th> <th>3Q</th> <th>4Q</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>583</td> <td>499</td> <td>611</td> <td>512</td> <td>681</td> <td>712</td> <td>593</td> <td>530</td> </tr> </tbody> </table>	2010年度				2011年度				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	614	503	673	212	836	679	676	316	2010年度				2011年度				1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	583	499	611	512	681	712	593	530
2010年度				2011年度																																																		
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		3Q	4Q																																														
614	503	673	212	836	679	676	316																																															
2010年度				2011年度																																																		
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q																																															
583	499	611	512	681	712	593	530																																															
当期利益の帰属:																																																						
親会社の所有者 ※1	2,507	316	2,002	504	25%	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">主要指標</th> <th>当期 (2011年度)</th> <th>前期 (2010年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>為替</td> <td>(YEN/US\$: 平均) [4-3月]</td> <td>79.06</td> <td>85.73</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">金利</td> <td>LIBOR 6M (YEN) [4-3月]</td> <td>0.35%</td> <td>0.40%</td> </tr> <tr> <td>LIBOR 6M (US\$) [4-3月]</td> <td>0.60%</td> <td>0.53%</td> </tr> <tr> <td>原油&lt;北海ブレント&gt;</td> <td>(US\$/bbl) [1-12月]</td> <td>112</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>銅</td> <td>(US\$/MT) [1-12月]</td> <td>8,813</td> <td>7,540</td> </tr> <tr> <td>亜鉛</td> <td>(US\$/MT) [1-12月]</td> <td>2,191</td> <td>2,159</td> </tr> <tr> <td>鉄鉱石</td> <td>(US\$/MT) [1-12月]※</td> <td>162</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>原料炭&lt;強粘結炭&gt;</td> <td>(US\$/MT) [4-3月]※</td> <td>291</td> <td>215</td> </tr> </tbody> </table> ※市場情報に基づく一般的な取引価格	主要指標		当期 (2011年度)	前期 (2010年度)	為替	(YEN/US\$: 平均) [4-3月]	79.06	85.73	金利	LIBOR 6M (YEN) [4-3月]	0.35%	0.40%	LIBOR 6M (US\$) [4-3月]	0.60%	0.53%	原油<北海ブレント>	(US\$/bbl) [1-12月]	112	80	銅	(US\$/MT) [1-12月]	8,813	7,540	亜鉛	(US\$/MT) [1-12月]	2,191	2,159	鉄鉱石	(US\$/MT) [1-12月]※	162	114	原料炭<強粘結炭>	(US\$/MT) [4-3月]※	291	215													
主要指標		当期 (2011年度)	前期 (2010年度)																																																			
為替	(YEN/US\$: 平均) [4-3月]	79.06	85.73																																																			
金利	LIBOR 6M (YEN) [4-3月]	0.35%	0.40%																																																			
	LIBOR 6M (US\$) [4-3月]	0.60%	0.53%																																																			
原油<北海ブレント>	(US\$/bbl) [1-12月]	112	80																																																			
銅	(US\$/MT) [1-12月]	8,813	7,540																																																			
亜鉛	(US\$/MT) [1-12月]	2,191	2,159																																																			
鉄鉱石	(US\$/MT) [1-12月]※	162	114																																																			
原料炭<強粘結炭>	(US\$/MT) [4-3月]※	291	215																																																			
非支配持分	130	6	96	34	36%																																																	
基礎収益 ※2	2,515	530	2,205	310	14%																																																	
包括利益 (親会社の所有者に帰属)	1,800	1,319	664	1,136	171%																																																	

※1 「当期利益の帰属: 親会社の所有者」は、米国会計基準における「当期純利益(住友商事㈱に帰属)」と同じ内容です。

※2 「基礎収益」= (「売上総利益」+「販売費及び一般管理費(除く貸倒引当金繰入額)」+「利息収支」+「受取配当金」) × 59% + 「持分法による投資利益」

## 2. セグメント情報

単位: 億円 (億円未満四捨五入)

	売上総利益			当期利益 (親会社の所有者に帰属)			当期実績の概要 (当期利益の主な増減要因等)
	当期 (2011年度)	前期 (2010年度)	増減	当期 (2011年度)	前期 (2010年度)	増減	
金属	668	661	7	154	182	△ 28	・スチールサービスセンター事業 減益 ・当期、一過性の損失あり
輸送機・建機	1,471	1,457	14	296	263	33	・自動車・建機事業 堅調
インフラ	312	233	79	100	40	60	・タンジュン・ジャティB電力事業 増益
メディア・ライフスタイル	2,211	1,832	379	298	240	59	・SCSK 貢献 ・ジュピターショップチャンネル、ジュピターテレコム 堅調
資源・化学品	1,128	1,113	15	898	656	242	・ホリビア銀・亜鉛・鉛事業、鉄鉱石事業 好調 ・事業再編に伴う税負債取崩益あり
生活産業・建設不動産	1,002	991	10	197	96	100	・住宅分譲事業 好調 ・前期、一過性の損失あり
新産業・機能推進	278	304	△ 26	146	130	16	・三井住友ファイナンス&リース 堅調 ・投資先の上場に伴う株式評価益あり
国内ブロック・支社	377	388	△ 11	50	39	11	・金属関連ビジネス 堅調
海外現地法人・海外支店	1,790	1,764	26	489	350	139	・金属関連ビジネス 堅調 ・当期、一過性の利益あり
合計	9,237	8,743	494	2,628	1,997	631	
消去又は全社	△ 48	△ 103	55	△ 121	5	△ 127	
連結	9,188	8,640	548	2,507	2,002	504	

## 3. 財政状態

	当期末 (2011年度末)	前期末 (2010年度末)	増減
総資産	72,268	72,305	△ 37
株主資本 ※	16,891	15,705	1,186
(内、外貨換算調整勘定) ※	(△ 1,121)	(△ 476)	(△ 644)
(内、未実現有価証券評価損益) ※	(579)	(537)	(42)
株主資本比率 ※	23.4%	21.7%	1.7 pt改善
有利子負債 (現預金Net)	27,867	30,563	△ 2,696
D/E Ratio (Net)	1.6	1.9	0.3 pt改善

## 4. キャッシュ・フロー

	当期 (2011年度)	前期 (2010年度)
営業活動	1,904	2,195
投資活動	△ 357	△ 4,694
<フリーキャッシュ・フロー>	<1,547>	<△ 2,499>
財務活動	△ 333	1,559
換算差額等	△ 38	△ 160
キャッシュの増減額	1,176	△ 1,100

  

主な増減要因	
<<総資産>> ・CSK子会社化による増加 ・現預金の積上げ ・住友三井オートサービス持分法化に伴う減少 <<株主資本>> ・当期利益積上げによる増加 ・外貨換算調整勘定の減少 <<有利子負債(現預金Net)>> ・住友三井オートサービス持分法化に伴う減少	

※「株主資本」は、連結財政状態計算書における「親会社の所有者に帰属する持分」と同じ内容です。

「外貨換算調整勘定」、「未実現有価証券評価損益」は、国際会計基準における「在外営業活動体の換算差額」、「FVTOCIの金融資産」と同じ内容です。

また、「株主資本比率」は、「親会社の所有者に帰属する持分」を「総資産」で除した値です。

## 5. 次期の見通し

単位: 億円(億円未満四捨五入)

	次期見通し (2012年度)	当期 (2011年度)	増減		次期見通しの概要																																			
			金額	増減率																																				
売上総利益	9,000	9,188	△ 188	△ 2%	<<売上総利益>> ・住友三井オートサービス等持分法化に伴う減少 ・タンジュン・ジャティB等電力事業 堅調 <<販売費及び一般管理費>> ・住友三井オートサービス等持分法化に伴う減少 <<その他>> ・ハリュ-実現等を見込む <<当期利益(親会社の所有者に帰属)>> ・資源関連ビジネスにおいて、減益を見込むものの、 新興国でのビジネスや、当社に強みのあるビジネスが 収益に貢献すると見込まれることから、2,600億円の 当期利益を見込む <予想の前提条件> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>次期見通し (2012年度)</th> <th>当期 (2011年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>為替</td> <td>(YEN/US\$: 平均) [4-3月]</td> <td>80.00</td> <td>79.06</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">金利</td> <td>LIBOR 6M (YEN) [4-3月]</td> <td>0.40%</td> <td>0.35%</td> </tr> <tr> <td>LIBOR 6M (US\$) [4-3月]</td> <td>0.80%</td> <td>0.60%</td> </tr> <tr> <td>原油&lt;北海ブレント&gt;</td> <td>(US\$/bbl) [1-12月]</td> <td>120</td> <td>112</td> </tr> <tr> <td>銅</td> <td>(US\$/MT) [1-12月]</td> <td>8,267</td> <td>8,813</td> </tr> <tr> <td>亜鉛</td> <td>(US\$/MT) [1-12月]</td> <td>2,146</td> <td>2,191</td> </tr> <tr> <td>鉄鉱石</td> <td>(US\$/MT) [1-12月]※</td> <td>133</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>原料炭&lt;強粘結炭&gt;</td> <td>(US\$/MT) [4-3月]※</td> <td>236</td> <td>291</td> </tr> </tbody> </table> ※市場情報に基づく一般的な取引価格 <為替レートの変動が当期利益(親会社の所有者に帰属)に与える影響> 1円/US\$の円高で、約13億円の減少			次期見通し (2012年度)	当期 (2011年度)	為替	(YEN/US\$: 平均) [4-3月]	80.00	79.06	金利	LIBOR 6M (YEN) [4-3月]	0.40%	0.35%	LIBOR 6M (US\$) [4-3月]	0.80%	0.60%	原油<北海ブレント>	(US\$/bbl) [1-12月]	120	112	銅	(US\$/MT) [1-12月]	8,267	8,813	亜鉛	(US\$/MT) [1-12月]	2,146	2,191	鉄鉱石	(US\$/MT) [1-12月]※	133	162	原料炭<強粘結炭>	(US\$/MT) [4-3月]※	236	291
		次期見通し (2012年度)	当期 (2011年度)																																					
為替	(YEN/US\$: 平均) [4-3月]	80.00	79.06																																					
金利	LIBOR 6M (YEN) [4-3月]	0.40%	0.35%																																					
	LIBOR 6M (US\$) [4-3月]	0.80%	0.60%																																					
原油<北海ブレント>	(US\$/bbl) [1-12月]	120	112																																					
銅	(US\$/MT) [1-12月]	8,267	8,813																																					
亜鉛	(US\$/MT) [1-12月]	2,146	2,191																																					
鉄鉱石	(US\$/MT) [1-12月]※	133	162																																					
原料炭<強粘結炭>	(US\$/MT) [4-3月]※	236	291																																					
販売費及び一般管理費 (内、貸倒引当金繰入額)	△ 6,700 (△ 50)	△ 6,864 (△ 102)	164 (52)	2% (51%)																																				
利息収支	△ 150	△ 151	1	0%																																				
受取配当金	120	112	8	7%																																				
持分法による投資利益	1,100	1,106	△ 6	△ 1%																																				
その他	200	22	178	809%																																				
税引前利益	3,570	3,414	156	5%																																				
法人所得税費用	△ 850	△ 777	△ 73	△ 9%																																				
当期利益	2,720	2,637	83	3%																																				
当期利益の帰属:																																								
親会社の所有者	2,600	2,507	93	4%																																				
非支配持分	120	130	△ 10	△ 8%																																				
基礎収益※	2,540	2,515	25	1%																																				
売上高 (日本の会計慣行に基づく)	81,000	82,730	△ 1,730	△ 2%																																				

※「基礎収益」=(「売上総利益」+「販売費及び一般管理費(除く貸倒引当金繰入額)」+「利息収支」+「受取配当金」)×(1-税率)+「持分法による投資利益」  
 基礎収益算出に使用している税率については、2011年度は41%、2012年度は38%を使用しております。

## セグメント別 業績見通し(当期利益(親会社の所有者に帰属))

単位: 億円(億円未満四捨五入)

	次期見通し (2012年度)	当期 (2011年度)	増減		次期見通し (2012年度)	当期 (2011年度)	増減
金属	210	154	56	生活産業・建設不動産	220	197	23
輸送機・建機	320	296	24	新産業・機能推進	130	146	△ 16
インフラ	150	100	50	国内ブロック・支社	60	50	10
メディア・ライフスタイル	400	298	102	海外現地法人・海外支店	520	489	31
資源・化学品	580	898	△ 318	消去又は全社	10	△ 121	131
				連結	2,600	2,507	93

## 6. 配当

当期 (2011年度)	中間	期末(予定)
50円	24円	26円

配当性向: 25%

次期見通し (2012年度)	中間(予定)	期末(予定)
51円	25円	26円

配当性向: 25%

(注) 将来情報に関するご注意

当社の経営目標及びその他の将来予測に関する開示内容は、将来の事象についての現時点における仮定及び予想並びに当社が現時点で入手している情報に基づいているため、今後の四半の状況等により変化を余儀なくされるものであり、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。  
 したがって、これらの情報に全面的に依拠されることは控えられ、また、当社がこれらの情報を逐次改訂する義務を負うものではないことをご認識いただくようお願い申し上げます。



# 平成24年3月期 決算短信〔IFRS〕(連結)

平成24年5月7日

上場取引所 東 大名 福

上場会社名 住友商事株式会社

コード番号 8053 URL <http://www.sumitomocorp.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 加藤 進

問合せ先責任者 (役職名) 広報部長

(氏名) 林 正俊

TEL 03-5166-3100

定時株主総会開催予定日 平成24年6月22日

配当支払開始予定日

平成24年6月25日

有価証券報告書提出予定日 平成24年6月22日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト等向け)

(連結業績: 百万円未満四捨五入 個別業績: 百万円未満切捨)

## 1. 平成24年3月期の連結業績(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		当期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期	8,273,043	△0.9	219,857	19.8	341,387	21.7	263,672	25.7	250,669	25.2	189,597	159.0
23年3月期	8,349,371	7.6	183,485	46.4	280,463	26.4	209,792	23.9	200,222	21.1	73,213	△74.4

	基本的1株当たり当期利益	希薄化後1株当たり当期利益	親会社所有者帰属持分当期利益率	資産合計税引前利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
24年3月期	200.52	200.39	15.4	4.7	2.7
23年3月期	160.17	160.09	12.9	3.9	2.2

(参考) 持分法による投資損益 24年3月期 110,628百万円 23年3月期 95,580百万円

(注)「売上高」は、当社及び子会社が契約当事者として行った取引額及び代理人等として関与した取引額の合計であり、日本の会計慣行に従い表示しているものであります。

「営業利益」は、連結包括利益計算書における「営業活動に係る利益」を表示しております。

「基本的1株当たり当期利益」及び「希薄化後1株当たり当期利益」は、「親会社の所有者に帰属する当期利益」を基に算定しております。

### (2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に帰属する持分	親会社所有者帰属持分比率	1株当たり親会社所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期	7,226,769	1,801,188	1,689,056	23.4	1,351.10
23年3月期	7,230,502	1,682,090	1,570,468	21.7	1,256.31

### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
24年3月期	190,417	△35,696	△33,273	821,915
23年3月期	219,502	△469,378	155,879	704,313

## 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額(合計)	配当性向(連結)	親会社所有者帰属持分配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
23年3月期	—	16.00	—	20.00	36.00	45,002	22.5	2.9
24年3月期	—	24.00	—	26.00	50.00	62,505	24.9	3.8
25年3月期(予想)	—	25.00	—	26.00	51.00	—	24.5	—

## 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		税引前利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—
通期	8,100,000	△2.1	357,000	4.6	260,000	3.7	207.99

(注) 当社の事業計画は通期ベースで作成しており、第2四半期(累計)の連結業績予想は作成しておりません。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 1社 (社名) 株式会社CSK 、 除外 1社 (社名) 株式会社CSK

(注)住商情報システム株式会社を存続会社、株式会社CSKを消滅会社として、2011年10月1日を効力発生日として吸収合併したことにより、株式会社CSKが当社の特定子会社でなくなったものであります。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期	1,250,602,867 株	23年3月期	1,250,602,867 株
② 期末自己株式数	24年3月期	472,515 株	23年3月期	537,680 株
③ 期中平均株式数	24年3月期	1,250,089,967 株	23年3月期	1,250,060,473 株

(注)1株当たり当期利益(連結)の算定上の基礎となる株式数については、14ページ「1株当たり情報」をご覧ください。

(参考)個別業績の概要

平成24年3月期の個別業績(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期	3,611,009	△8.7	△24,901	—	77,635	78.1	74,017	68.3
23年3月期	3,953,315	5.8	△19,504	—	43,582	50.5	43,979	△44.7

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
	円 銭		円 銭	
24年3月期	59.21		59.17	
23年3月期	35.18		35.16	

(注)当期より、前期において特別利益・特別損失に表示しておりました「投資有価証券売却益」、「投資有価証券売却損」、「投資有価証券評価損」及び「関係会社貸倒引当金繰入額」を営業外収益・営業外費用に表示しております。この変更は「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号)の適用を契機として、経常損益をより適切に表示するために見直しを行ったものであります。この結果、前期における「経常利益」は45,535百万円から43,582百万円へ減少しております。

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%	円 銭		
24年3月期	4,162,790		860,292		20.6	687.26		
23年3月期	4,215,859		848,204		20.1	677.73		

(参考) 自己資本 24年3月期 859,170百万円 23年3月期 847,212百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表及び個別財務諸表の監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社の経営目標及びその他の将来予測に関する開示内容は、将来の事象についての現時点における仮定及び予想並びに当社が現時点で入手している情報に基づいているため、今後の四囲の状況等により変化を余儀なくされるものであり、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。したがって、これらの情報に全面的に依拠されることは控えられ、また、当社がこれらの情報を逐次改訂する義務を負うものではないことをご認識いただくようお願い申し上げます。

## ○ 添付資料の目次

1. 経営成績及び財政状態 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結業績の見通し .....	3
(3) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(4) 利益配分に関する基本的方針及び当期・次期の配当 .....	4
2. 経営方針 .....	5
(1) 中期経営計画と当期における事業活動等 .....	5
(2) 今後の対処すべき課題 .....	8
3. 連結財務諸表 .....	9
(1) 連結財政状態計算書 [IFRS] .....	9
(2) 連結包括利益計算書 [IFRS] .....	10
(3) 連結持分変動計算書 [IFRS] .....	11
(4) 要約連結キャッシュ・フロー計算書 [IFRS] .....	12
(5) 継続企業の前提に関する注記 .....	13
(6) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	13
a. セグメント情報（要約） [IFRS] .....	13
b. 1株当たり情報 .....	14
c. 重要な後発事象 .....	14

## 1. 経営成績及び財政状態

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当期の売上高は、前期に比べほぼ横ばいの8兆2,730億円となりました。売上総利益は、前期に比べ548億円増加し9,188億円となりました。販売費及び一般管理費は、前期に比べ257億円増加し6,864億円となりましたが、営業活動に係る利益は、前期に比べ364億円増加し2,199億円となりました。また、持分法による投資利益は、前期に比べ150億円増加し1,106億円となりました。これらの結果、親会社の所有者に帰属する当期利益は2,507億円となり、前期に比べ504億円、率にして25.2%の増益となりました。

なお、親会社の所有者に帰属する当期利益のセグメント別の状況は次のとおりです。

- ・ 金属事業部門では、スチールサービスセンター事業が減益となったことに加え、当期に一過性の損失があったことなどから、前期に比べ28億円減益の154億円となりました。
- ・ 輸送機・建機事業部門では、自動車・建機事業が堅調に推移したことなどにより、前期に比べ33億円増益の296億円となりました。
- ・ インフラ事業部門では、タンジュン・ジャティB電力事業が増益となったことなどにより、前期に比べ60億円増益の100億円となりました。
- ・ メディア・ライフスタイル事業部門では、昨年10月に住商情報システムとCSKが合併して発足したSCSKが業績に貢献したことに加え、ジュピターショップチャンネルやジュピターテレコムが堅調に推移したことなどにより、前期に比べ59億円増益の298億円となりました。
- ・ 資源・化学品事業部門では、ポリピア銀・亜鉛・鉛事業や鉄鉱石事業が好調に推移したことに加え、事業再編に伴う税負債取崩益があったことなどにより、前期に比べ242億円増益の898億円となりました。
- ・ 生活産業・建設不動産事業部門では、住宅分譲事業が好調に推移しました。また、前期に一過性の損失があったことなどから、前期に比べ100億円増益の197億円となりました。
- ・ 新産業・機能推進事業部門では、三井住友ファイナンス&リースの業績が堅調に推移したことに加え、投資先の上場に伴う株式評価益があったことなどにより、前期に比べ16億円増益の146億円となりました。
- ・ 国内ブロック・支社では、金属関連ビジネスが堅調に推移したことなどにより、前期に比べ11億円増益の50億円となりました。
- ・ 海外現地法人・海外支店では、金属関連ビジネスが堅調に推移したことに加え、当期に一過性の利益があったことなどにより、前期に比べ139億円増益の489億円となりました。

## (2) 連結業績の見通し

平成25年3月期の連結業績は、次のとおり見通しております。

売上高	8兆1,000億円
税引前利益	3,570億円
親会社の所有者に帰属する当期利益	2,600億円

## (注) 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社の経営目標及びその他の将来予測に関する開示内容は、将来の事象についての現時点における仮定及び予想並びに当社が現時点で入手している情報に基づいているため、今後の四囲の状況等により変化を余儀なくされるものであり、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。したがって、これらの情報に全面的に依拠されることは控えられ、また、当社がこれらの情報を逐次改訂する義務を負うものではないことをご認識いただくようお願い申し上げます。

## (3) 連結財政状態に関する定性的情報

資産、負債及び資本の状況

当期末の資産合計は、CSKの子会社化やチリ銅鉱山開発プロジェクトなどへの新規投融資を行った一方で、オートリース事業の戦略的再編に伴い、住友三井オートサービスが持分法適用会社となったことなどにより、前期末に比べほぼ横ばいの7兆2,268億円となりました。

資本のうち親会社の所有者に帰属する持分は、円高により在外営業活動体の換算差額が悪化したものの、親会社の所有者に帰属する当期利益の積み上げがあったことなどにより、前期末に比べ1,186億円増加し1兆6,891億円となりました。

現預金ネット後の有利子負債は、持分法適用会社となった住友三井オートサービスの有利子負債が減少したことなどにより、前期末に比べ2,696億円減少の2兆7,867億円となりました。この結果、ネットのDebt-Equity Ratio（有利子負債（ネット）／親会社の所有者に帰属する持分）は、1.6倍となり、前期末に比べ0.3ポイント改善しました。

キャッシュ・フローの状況

当期のキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローでは、コアビジネスが順調に資金を創出したことなどにより、1,904億円のキャッシュ・インとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、資産売却などにより積極的に資金の回収を行った一方で、チリ銅鉱山開発プロジェクトへの新規投融資を行ったことなどにより、357億円のキャッシュ・アウトとなりました。

この結果、営業活動によるキャッシュ・フローに投資活動によるキャッシュ・フローを加えたフリーキャッシュ・フローは、1,547億円のキャッシュ・インとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、333億円のキャッシュ・アウトとなりました。これらの結果、当期末の現金及び現金同等物は、前期末に比べ1,176億円増加し8,219億円となりました。

## (4)利益配分に関する基本的方針及び当期・次期の配当

当社は、株主に対して長期にわたり安定した配当を行うという基本方針のもと、経済環境の変化や投資計画の進捗に柔軟に対応しながら、連結配当性向を20%~30%の範囲で運用することとしております。

当期の年間配当金は、当期の連結純利益<sup>(※1)</sup>が2,507億円となりましたので、期初にお知らせした連結配当性向25%を適用し、1株当たり50円と致します(前期年間配当金実績36円)。当期の中間配当金は24円でしたので、期末配当金は26円となります。

平成25年3月期の年間配当金については、連結純利益が予想どおり2,600億円となった場合、連結配当性向25%を適用し、一株当たり51円(中間25円、期末26円)となる予定です。

※1 「連結純利益」は、国際会計基準(IFRS)の「親会社の所有者に帰属する当期利益」と同じ内容です。

※2 配当金総額は、連結純利益に連結配当性向を乗じた額を超えないこととしております。

## 2. 経営方針

### (1) 中期経営計画と当期における事業活動等

#### ● 中期経営計画「 $f(x)$ 」の概要と進捗状況

当社は、昨年4月、2011年度～2012年度の2年間の中期経営計画「 $f(x)$ 」<sup>エフ クロス</sup>（注<sup>1</sup>）を策定し、目標達成に向けた取り組みを開始しています。「 $f(x)$ 」では、10年先を見据えて策定した前中期経営計画「FOCUS'10」の基本方針・諸施策を踏襲しながら、価値創造の経営理念に基づき時代が求めるビジネスモデルへの高度化・転換を「実行(execution)」し、全てのパートナーとともに地域・世代・組織の枠組みを越えた成長を目指しています。「ビジネスモデルの高度化・転換」を、スピード感を持って実現するために、「現場の中長期ビジョンを『見える化』し、共有する」、「戦略的なリソースマネジメントを加速する」、「グローバルベースで総合力を深化する」、「全社レベルでの人材マネジメントを強化する」という4つのキーアクションを掲げ、これらの実行に全社一丸となって注力しています。このうち、「戦略的なリソースマネジメント」については、より高い成長性・収益性が期待できるビジネスへの経営資源の戦略的配分を進めています。また、定量目標として、連結純利益<sup>注<sup>2</sup></sup>で2011年度2,200億円、2012年度2,600億円、リスク・リターンで2012年度15%以上の確保を掲げています。2011年度の連結純利益は2,507億円となり、「 $f(x)$ 」は順調に進捗しています。

#### ● 「 $f(x)$ 」の実現に向けて

「 $f(x)$ 」の実現に向けて、各事業部門で注力した事業活動は次のとおりです。

##### ① 金属事業部門

輸送機材の分野では、米国において、鉄道用車輪・車軸の販売会社である Summit Railroad Products, Inc. を設立しました。住友金属工業と共同で出資している Standard Steel, LLC が製造する車輪・車軸を中心とした販売体制を構築することにより、北米での販売拡大を目指します。鋼管の分野では、米国において、小径シームレス鋼管メーカーである V&M TWO, LLC に出資参画しました。シェールガスやシェールオイルなどの中長期的な拡大が見込まれる非在来型エネルギーの開発事業向けに、小径シームレス鋼管を供給します。また、オーストラリアにおいて、国際石油開発帝石が進めている液化天然ガス(LNG) 開発事業向けの鋼管を受注しました。アジア・オセアニア地域での活発な資源開発を背景に需要の増大が見込まれる鋼管市場において、更なる受注を目指します。

##### ② 輸送機・建機事業部門

自動車の分野では、住友三井オートサービスが、日立キャピタルグループとオートリース事業の戦略的共同化を目的とする業務・資本提携を推進しました。この提携を通じて、顧客基盤やノウハウを結集し、より付加価値の高い商品・サービスを提供することにより、オートリース業界での No.1 ポジションの確立を目指します。建設機械の分野では、ロシアにおけるコマツ製鉱山機械の販売・サービス事業の強化を図りました。ロシア最大の石炭産出地であるクズバス地域に、コマツがテクニカルサポートセ

<sup>エフ クロス</sup>  
 (注1) 「 $f(x)$ 」のエフは前中期経営計画「FOCUS'10」のエフを指しています。また、クロスは「実行」を意味する英語の「execution」のエックスを指していますが、「地域・世代・組織の枠組みを越える成長」を意味する「cross-boundary growth」のクロスの意味合いも込めて、エックスではなくクロスと読みます。

(注2) 「連結純利益」は、国際会計基準(IFRS)の「当期利益(親会社の所有者に帰属)」と同じ内容を示しております。

ンターを開設したことに連動して、同地域にコマツ製鉱山機械の販売・サービス拠点を開設しました。コマツの商品力・技術サポート力に、当社の持つ販売・サービス機能を組み合わせることにより、現地の石炭採掘企業などに向けて、鉱山機械の販売拡大を図ります。

### ③インフラ事業部門

通信・環境・産業インフラの分野では、当社が注力分野と位置付ける再生可能エネルギー事業である風力発電事業に積極的に取り組みました。米国において、世界最大級の発電容量を有する Caithness Shepherds Flat 風力発電事業に出資参画しました。電力インフラの分野では、インドネシアにおいて、当社が保有するタンジュン・ジャティ B 石炭火力発電所の拡張工事が完了し、同国電力会社への電力供給を開始しました。電力需給が逼迫している同国において、電力供給能力の拡充に貢献します。また、台湾において、同国国営電力会社より、台湾本島・澎湖島間の海底電力ケーブル敷設工事を受注しました。澎湖島では、島内のディーゼル発電を風力発電に切り換える低炭素構想を推進していますが、このケーブルにより、本島からも電力を供給することが可能となり、電力の安定供給に資することになります。

### ④メディア・ライフスタイル事業部門

メディアの分野では、ジュピターテレコム (J:COM) が、ケーブルテレビ事業において、地デジ化対応へのニーズを獲得すべく販売施策を強化したことや、KDDI とのアライアンスを推進したことなどにより、加入世帯数や世帯当たりサービス契約数を順調に伸ばしました。また、横浜ケーブルビジョンの株式の過半数を取得して営業基盤の拡大に努めました。一方、番組供給事業では、チャンネル統合の推進や新規 BS 放送の開始など、コンテンツの魅力向上や一層の拡販に向けた取り組みにより、事業の強化を図りました。ネットワークの分野では、昨年 10 月に住商情報システムと CSK が合併しました。合併後の新会社 SCSK は、業容の拡大を図るとともに、クラウド関連サービスへの関心の高まりなどによる堅調な IT 投資を商機として、積極的な受注活動を行いました。ライフスタイル・リテイルの分野では、テレビ通販最大手のジュピターショップチャンネルが、引き続き魅力的な番組や商品の開発に取り組んだほか、地上波放送での配信開始や BS 放送での配信チャンネル拡大などにより新たな顧客の獲得に努めました。

### ⑤資源・化学品事業部門

資源の分野では、チリにおいて住友金属鉱山と共同で Sierra Gorda 銅鉱山開発プロジェクトに参画しました。2014 年の生産開始に向けて開発が本格化しています。資源分野の重点戦略商品<sup>(注 1)</sup>の一つと位置付けている銅の保有権益を拡大します。また、一昨年参画したブラジル MUSA 鉄鉱山開発プロジェクトの生産も順調に推移しており、さらに増産計画を進めています。ライフサイエンスの分野では、当社が 100% 出資する米国のペット用品製造販売会社 The Hartz Mountain Corporation (Hartz) の株式の 51% をユニ・チャームに譲渡しました。ユニ・チャームの高い技術力や商品開発力を生かし、Hartz の事業拡大を目指します。また、ルーマニアの総合農業資材販売会社の Alcedo S. R. L への出資参画や、世界最大の農薬市場である米国での農薬販売会社の設立などを通じて、農薬関連事業のグローバル展開を推進しました。

(注 1) 銅、石炭、鉄鉱石及び原油・ガスを資源分野の重点戦略商品と位置付けています。

#### ⑥生活産業・建設不動産事業部門

食料の分野では、米国の豚肉生産会社 Smithfield Foods, Inc. と共同開発したブランド豚肉「四元豚シルキーポーク」<sup>(注 1)</sup> の国内販売が好調でした。これは、同ブランド肉の徹底した品質管理による安心・安全とおいしさが評価されたことによるものです。建設不動産の分野では、湘南地区最大の商業施設となる「Terrace Mall 湘南」が JR 辻堂駅前にオープンしました。駅に直結した便利な場所に、幅広い世代のニーズに対応するバラエティ豊かな 281 店舗が来店しています。また、オフィスビル開発・賃貸事業では、東京都千代田区神田錦町一丁目のビルと同区神保町二丁目のビルが竣工しました。立地条件の良い都心部におけるオフィスビル事業により、一層の収益拡大を目指します。

#### ⑦新産業・機能推進事業部門

自然エネルギーの分野では、南仏 Les Mées 市で開発した大規模太陽光発電所が商業運転を開始しました。同国の電力会社に対して長期にわたり電力を供給し、安定収益を見込みます。当社の太陽光発電事業ではスペイン、イタリアに続くもので、他地域でも展開を図ります。電気自動車関連の分野では、電気自動車の普及に向けて、日産自動車、日本電気及び昭和シェルと共同で、充電サービス事業の事業性調査を開始しました。将来的には、全国の自動車販売会社やガソリンスタンド、商業施設等に設置された充電器のネットワークを構築し、電気自動車の利用環境の整備を目指します。金融の分野では、引き続き、航空機リース事業に注力しました。三井住友銀行及び三井住友ファイナンス&リースと共同で、英国の大手金融機関傘下の航空機リース事業会社の全株式を取得します。新興国市場の成長に伴う航空旅客輸送量の増加や格安航空会社の台頭などを受けて、航空機リースの需要が堅調に拡大していくと見込まれることから、更なる事業の拡大を目指します。

#### ●環境保全への取り組み

本業である事業活動を通じて持続可能な形で低炭素社会・循環型社会の構築に向けた地球環境の保全に貢献するという基本的な考え方にに基づき、前述の風力発電事業や太陽光発電事業のほか、中国の廃家電リサイクル事業や欧州における薄型テレビメーカー向けのミルクラン輸送事業<sup>(注 2)</sup>など、様々な環境ビジネスに積極的に取り組みました。また、電気自動車の普及に向けて充電サービス事業の事業性調査を開始したほか、日本政府が推進する二国間オフセット・クレジット制度<sup>(注 3)</sup>という新しい枠組みのもとで、インドネシアにおいて森林破壊を防止することによる温室効果ガスの削減量を排出権化するビジネスの事業性調査に取り組むなど、新たな活動にも着手しました。

#### ●社会貢献活動

当社は、昨年 3 月に発生した東日本大震災という未曾有の災害に対して、社内に「息の長い復興支援推進チーム」を立ち上げ、産業復興支援と人道支援の両面で、復興に向けて取り組んでいます。産業復

<sup>(注 1)</sup> 四元豚とは 4 品種を掛け合わせた豚です。国内で一般的な三元豚という 3 品種の掛け合わせに、日本では珍しいチェスターホワイトという畜種を加えて開発しました。さらに、最適なアミノ酸バランスに調節した独自の飼料を与えることにより、日本人の嗜好に合わせたきれいな桜色、脂の甘み、そしてサシと言われる霜降りが入った柔らかな肉質を実現しました。

<sup>(注 2)</sup> 本事業において、ミルクラン輸送とは、1 台のトラックが複数の薄型テレビ用部品製造業者を巡回して集荷する方式をいいます。従来は各部品製造業者がメーカーへの部品供給に係る輸送を手配していましたが、この方式により、トラック台数の削減による CO2 排出量の削減を実現できます。

<sup>(注 3)</sup> 日本政府が推進する二国間オフセット・クレジット制度とは、日本が途上国に対して、温室効果ガスの排出削減に資する技術、製品、システムや、インフラ等を提供し、これにより途上国において削減された温室効果ガスの排出量を日本の温室効果ガス排出量削減に係る中期目標の達成に活用する仕組みです。

興支援としては、東北漁業再開支援基金「希望の<sup>のろし</sup>烽火」に協賛金を拠出することにより、津波による壊滅的な被害を受けた三陸沿岸漁業の早期再開を支援しました。本格復興を民間支援により迅速に進めるという同基金の趣旨に賛同したものです。また、同様に深刻な被害を受けた宮城県気仙沼市の主要産業である水産業の早期復興を支援しています。同市が計画している水産加工専用区域において、地元の水産加工業者が設立する組合が排水処理施設などの共同利用施設を建設し、共用化することにより、コスト削減と事業の効率化を図り、ひいては同市の水産業を復興しようというものです。当社は、三井物産と共同で立案段階から参画し、人的・経済的側面から、組合の設立に向けて積極的な支援に取り組んでいます。一方、人道支援としては、震災復興ボランティアプログラムを立ち上げ、延べ約 160 名の当社役員・従業員が被災地で災害ボランティア活動に従事しました。さらに、被災地の再生に向けた活動に参加する大学生や大学院生などのユースを応援するために、「住友商事 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム」を立ち上げました。今後 5 年間にわたり、ユースあるいはユースを対象に活動する NPO 等による地域再生のための活動・研究調査や、被災地で活動する NPO によるユースのインターンシップ受け入れに資金助成を行い、地域再生を支援するとともに、地域の将来を担うユースの成長を応援します。

当社は、今後も、産業復興支援と人道支援の両面で、息の長い支援に取り組んでいきます。

## (2) 今後の対処すべき課題

世界経済は、先進国では欧州を中心とした債務問題による金融市場への影響が残るものの、新興国では金融緩和への政策転換を背景に内需を中心に底堅く推移するため、徐々に減速に歯止めがかかると見込まれます。ただし、引き続き主要国の財政赤字拡大を背景に、金融市場の不安定化などのリスクが増大することも考えられます。

国内経済は、東日本大震災の復興需要の本格化や政府の経済対策効果に下支えされ、緩やかな回復が続くと見込まれますが、先進国経済の減速や円高の定着が輸出や設備投資の回復に対する重石になると見られます。また、世界経済における上記リスクの顕在化によって、より厳しい経済環境となることも懸念されます。

当社を取り巻く経済環境は上記のような懸念がありますが、情勢の変化に的確に対応するとともに、このような厳しい経済環境下においても、価値創造の経営理念に基づき時代が求めるビジネスモデルへの高度化・転換を「実行(execution)」し、「 $f(x)$ <sup>エフクロス</sup>」の確実な達成に取り組んでいきます。「現場の中長期ビジョンを『見える化』し、共有する」、「戦略的なリソースマネジメントを加速する」、「グローバルベースで総合力を深化する」、「全社レベルでの人材マネジメントを強化する」という 4 つのキーアクションを通じて、時代が求めるビジネスモデルへの高度化・転換を実行し、全てのパートナーとともに様々な枠組みを越えた成長を目指します。

## 3. 連結財務諸表

## (1) 連結財政状態計算書 [IFRS]

(単位：百万円)

科目	当期 (平成24年3月期末)	前期 (平成23年3月期末)	増減	科目	当期 (平成24年3月期末)	前期 (平成23年3月期末)	増減
(資産の部)				(負債及び資本の部)			
<b>流動資産</b>				<b>流動負債</b>			
現金及び現金同等物	821,915	704,313	117,602	社債及び借入金	632,267	850,435	△ 218,168
定期預金	5,245	6,829	△ 1,584	営業債務及び その他の債務	1,102,326	1,026,160	76,166
有価証券	20,474	5,239	15,235	その他の金融負債	54,636	92,136	△ 37,500
営業債権及び その他の債権	1,514,360	1,511,442	2,918	未払法人所得税	27,773	33,528	△ 5,755
その他の金融資産	48,239	68,641	△ 20,402	未払費用	91,726	88,222	3,504
棚卸資産	707,105	698,810	8,295	前受金	181,001	199,437	△ 18,436
前渡金	217,697	333,200	△ 115,503	引当金	8,376	5,925	2,451
その他の流動資産	155,271	160,832	△ 5,561	その他の流動負債	74,865	47,233	27,632
<b>流動資産合計</b>	<b>3,490,306</b>	<b>3,489,306</b>	<b>1,000</b>	<b>流動負債合計</b>	<b>2,172,970</b>	<b>2,343,076</b>	<b>△ 170,106</b>
<b>非流動資産</b>				<b>非流動負債</b>			
持分法で会計処理 されている投資	1,246,666	1,100,966	145,700	社債及び借入金	2,981,548	2,916,963	64,585
その他の投資	476,910	446,319	30,591	営業債務及び その他の債務	108,701	118,073	△ 9,372
営業債権及び その他の債権	645,732	622,414	23,318	その他の金融負債	36,785	33,998	2,787
その他の金融資産	74,965	53,507	21,458	退職給付引当金	25,635	18,811	6,824
有形固定資産	606,855	813,435	△ 206,580	引当金	22,797	17,374	5,423
無形資産	331,618	348,993	△ 17,375	繰延税金負債	77,145	100,117	△ 22,972
投資不動産	215,563	237,668	△ 22,105	<b>非流動負債合計</b>	<b>3,252,611</b>	<b>3,205,336</b>	<b>47,275</b>
長期前払費用	36,131	49,807	△ 13,676	<b>負債合計</b>	<b>5,425,581</b>	<b>5,548,412</b>	<b>△ 122,831</b>
繰延税金資産	102,023	68,087	33,936	<b>資本</b>			
<b>非流動資産合計</b>	<b>3,736,463</b>	<b>3,741,196</b>	<b>△ 4,733</b>	資本金	219,279	219,279	—
<b>資産合計</b>	<b>7,226,769</b>	<b>7,230,502</b>	<b>△ 3,733</b>	資本剰余金	282,407	288,868	△ 6,461
				自己株式	△ 1,034	△ 1,053	19
				その他の資本の構成要素	△ 63,007	△ 4,819	△ 58,188
				利益剰余金	1,251,411	1,068,193	183,218
				<b>親会社の所有者に 帰属する持分合計</b>	<b>1,689,056</b>	<b>1,570,468</b>	<b>118,588</b>
				非支配持分	112,132	111,622	510
				<b>資本合計</b>	<b>1,801,188</b>	<b>1,682,090</b>	<b>119,098</b>
				<b>負債及び資本合計</b>	<b>7,226,769</b>	<b>7,230,502</b>	<b>△ 3,733</b>

## (2) 連結包括利益計算書 [IFRS]

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成24年3月期)	前 期 (平成23年3月期)	前 期 比	
			金 額	増 減 率
<b>収益</b>				
商品販売に係る収益	2,557,022	2,525,543	31,479	1.2%
サービス及びその他の販売に係る収益	703,973	574,642	129,331	22.5%
<b>収益合計</b>	<b>3,260,995</b>	<b>3,100,185</b>	<b>160,810</b>	<b>5.2%</b>
<b>原価</b>				
商品販売に係る原価	△ 2,066,901	△ 2,032,208	△ 34,693	△ 1.7%
サービス及びその他の販売に係る原価	△ 275,269	△ 203,983	△ 71,286	△ 34.9%
<b>原価合計</b>	<b>△ 2,342,170</b>	<b>△ 2,236,191</b>	<b>△ 105,979</b>	<b>△ 4.7%</b>
<b>売上総利益</b>	<b>918,825</b>	<b>863,994</b>	<b>54,831</b>	<b>6.3%</b>
<b>その他の収益・費用</b>				
販売費及び一般管理費	△ 686,404	△ 660,690	△ 25,714	△ 3.9%
固定資産評価損	△ 13,342	△ 19,889	6,547	32.9%
固定資産売却損益	4,360	2,248	2,112	94.0%
その他の損益	△ 3,582	△ 2,178	△ 1,404	△ 64.5%
<b>その他の収益・費用合計</b>	<b>△ 698,968</b>	<b>△ 680,509</b>	<b>△ 18,459</b>	<b>△ 2.7%</b>
<b>営業活動に係る利益</b>	<b>219,857</b>	<b>183,485</b>	<b>36,372</b>	<b>19.8%</b>
<b>金融収益及び金融費用<sup>(※1)</sup></b>				
受取利息	13,900	13,919	△ 19	△ 0.1%
支払利息	△ 28,956	△ 32,009	3,053	9.5%
受取配当金	11,194	10,011	1,183	11.8%
有価証券損益 <sup>(※2)</sup>	14,764	9,477	5,287	55.8%
<b>金融収益及び金融費用合計</b>	<b>10,902</b>	<b>1,398</b>	<b>9,504</b>	<b>679.8%</b>
<b>持分法による投資利益</b>	<b>110,628</b>	<b>95,580</b>	<b>15,048</b>	<b>15.7%</b>
<b>税引前利益</b>	<b>341,387</b>	<b>280,463</b>	<b>60,924</b>	<b>21.7%</b>
<b>法人所得税費用</b>	<b>△ 77,715</b>	<b>△ 70,671</b>	<b>△ 7,044</b>	<b>△ 10.0%</b>
<b>当期利益</b>	<b>263,672</b>	<b>209,792</b>	<b>53,880</b>	<b>25.7%</b>
<b>当期利益の帰属：</b>				
親会社の所有者	250,669	200,222	50,447	25.2%
非支配持分	13,003	9,570	3,433	35.9%
<b>その他の包括利益</b>				
在外営業活動体の換算差額	△ 67,465	△ 87,677	20,212	23.1%
FVTOCIの金融資産	△ 1,352	△ 39,465	38,113	96.6%
キャッシュ・フロー・ヘッジ	2,005	4,901	△ 2,896	△ 59.1%
確定給付制度の数理計算上の差異	△ 12,045	△ 13,926	1,881	13.5%
持分法適用会社におけるその他の包括利益に対する持分	4,782	△ 412	5,194	-
<b>税引後その他の包括利益</b>	<b>△ 74,075</b>	<b>△ 136,579</b>	<b>62,504</b>	<b>45.8%</b>
<b>当期包括利益合計</b>	<b>189,597</b>	<b>73,213</b>	<b>116,384</b>	<b>159.0%</b>
<b>当期包括利益合計額の帰属：</b>				
親会社の所有者	180,033	66,388	113,645	171.2%
非支配持分	9,564	6,825	2,739	40.1%
<b>売上高 (日本の会計慣行に基づく)</b>	<b>8,273,043</b>	<b>8,349,371</b>	<b>△ 76,328</b>	<b>△ 0.9%</b>

※1. 当期より、前期において区分掲記しておりました「金融収益」及び「金融費用」を「金融収益及び金融費用」として一括掲記しております。

※2. 当期より、「有価証券評価損益」及び「有価証券売却損益」を「有価証券損益」として一括掲記しております。

## (3)連結持分変動計算書 [IFRS]

(単位:百万円)

科 目	当 期 (平成24年3月期)	前 期 (平成23年3月期)
<b>資本</b>		
<b>資本金 ー 普通株式</b>		
期首残高	219,279	219,279
期末残高	219,279	219,279
<b>資本剰余金</b>		
期首残高	288,868	289,117
非支配持分の取得及び処分	△ 5,426	△ 519
持分法適用会社において認識した資本取引	△ 1,185	-
ストック・オプション付与による増加額等	150	270
期末残高	282,407	288,868
<b>自己株式</b>		
期首残高	△ 1,053	△ 1,083
ストック・オプション権利行使等	19	30
期末残高	△ 1,034	△ 1,053
<b>その他の資本の構成要素</b>		
期首残高	△ 4,819	109,929
新会計基準適用による累積的影響額	-	8,254
その他の包括利益	△ 70,636	△ 133,834
利益剰余金への振替	12,448	10,832
期末残高	△ 63,007	△ 4,819
<b>利益剰余金</b>		
期首残高	1,068,193	916,013
新会計基準適用による累積的影響額	-	1,542
その他の資本の構成要素からの振替	△ 12,448	△ 10,832
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	250,669	200,222
配当金	△ 55,003	△ 38,752
期末残高	1,251,411	1,068,193
<b>親会社の所有者に帰属する持分合計</b>	<b>1,689,056</b>	<b>1,570,468</b>
<b>非支配持分</b>		
期首残高	111,622	103,967
非支配持分株主への配当	△ 6,287	△ 3,505
非支配持分の取得及び処分等	△ 2,767	4,335
当期利益 (非支配持分に帰属)	13,003	9,570
その他の包括利益	△ 3,439	△ 2,745
期末残高	112,132	111,622
<b>資本合計</b>	<b>1,801,188</b>	<b>1,682,090</b>
<b>当期包括利益合計額の帰属:</b>		
親会社の所有者	180,033	66,388
非支配持分	9,564	6,825
<b>当期包括利益合計</b>	<b>189,597</b>	<b>73,213</b>

## (4) 要約連結キャッシュ・フロー計算書 [IFRS]

(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成24年3月期)	前 期 (平成23年3月期)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
当期利益	263,672	209,792
営業活動によるキャッシュ・フローにするための調整		
減価償却費及び無形資産償却費	155,126	160,553
固定資産評価損	13,342	19,889
金融収益及び金融費用	△ 10,902	△ 1,398
持分法による投資利益	△ 110,628	△ 95,580
固定資産売却損益	△ 4,360	△ 2,248
法人所得税費用	77,715	70,671
棚卸資産の増減	△ 32,637	△ 72,141
営業債権及びその他の債権の増減	△ 81,534	△ 46,618
前払費用の増減	△ 3,523	△ 10,747
営業債務及びその他の債務の増減	△ 5,814	△ 2,670
その他	△ 70,040	△ 10,001
営業活動によるキャッシュ・フロー	190,417	219,502
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産等の収支	△ 49,953	△ 73,608
投資・有価証券等の収支	25,678	△ 277,796
貸付金の収支	△ 11,421	△ 117,974
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 35,696	△ 469,378
<b>フリーキャッシュ・フロー</b>	154,721	△ 249,876
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入債務の収支	72,110	△ 110,961
長期借入債務の収支	△ 47,768	309,796
配当金の支払額	△ 55,003	△ 38,752
非支配持分株主に対する収支等	△ 2,612	△ 4,204
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 33,273	155,879
<b>現金及び現金同等物の増減額</b>	121,448	△ 93,997
現金及び現金同等物の期首残高	704,313	814,288
現金及び現金同等物の為替変動による影響	△ 3,846	△ 15,978
現金及び現金同等物の期末残高	821,915	704,313

## (5) 継続企業の前提に関する注記

該当なし

## (6) 連結財務諸表に関する注記事項

## a. セグメント情報(要約) [IFRS]

当期 (平成24年3月期)

(単位: 百万円)

	金 属	輸 送 機 ・ 建 機	インフラ	メディア・ ライフスタイル	資 源・ 化 学 品	生活産業・ 建設不動産
売 上 総 利 益	66,826	147,104	31,232	221,081	112,822	100,155
当 期 利 益 (親会社の所有者に帰属)	15,363	29,609	9,995	29,842	89,833	19,663
資 産 合 計	638,428	900,810	563,075	1,031,574	1,171,322	771,642

	新産業・ 機能推進	国内ブロッ ク ・ 支 社	海外現地法人 ・ 海外支店	計	消去又は 全 社	連 結
売 上 総 利 益	27,836	37,660	178,958	923,674	△ 4,849	918,825
当 期 利 益 (親会社の所有者に帰属)	14,572	4,998	48,923	262,798	△ 12,129	250,669
資 産 合 計	549,652	419,557	1,151,957	7,198,017	28,752	7,226,769

前期 (平成23年3月期)

(単位: 百万円)

	金 属	輸 送 機 ・ 建 機	インフラ	メディア・ ライフスタイル	資 源・ 化 学 品	生活産業・ 建設不動産
売 上 総 利 益	66,128	145,663	23,321	183,158	111,336	99,131
当 期 利 益 (親会社の所有者に帰属)	18,200	26,315	4,015	23,968	65,610	9,620
資 産 合 計	635,120	1,310,925	544,853	777,720	1,150,384	696,464

	新産業・ 機能推進	国内ブロッ ク ・ 支 社	海外現地法人 ・ 海外支店	計	消去又は 全 社	連 結
売 上 総 利 益	30,407	38,751	176,399	874,294	△ 10,300	863,994
当 期 利 益 (親会社の所有者に帰属)	13,013	3,912	35,027	199,680	542	200,222
資 産 合 計	597,304	354,519	1,155,500	7,222,789	7,713	7,230,502

## 増 減

(単位: 百万円)

	金 属	輸 送 機 ・ 建 機	インフラ	メディア・ ライフスタイル	資 源・ 化 学 品	生活産業・ 建設不動産
売 上 総 利 益	698	1,441	7,911	37,923	1,486	1,024
当 期 利 益 (親会社の所有者に帰属)	△ 2,837	3,294	5,980	5,874	24,223	10,043
資 産 合 計	3,308	△ 410,115	18,222	253,854	20,938	75,178

	新産業・ 機能推進	国内ブロッ ク ・ 支 社	海外現地法人 ・ 海外支店	計	消去又は 全 社	連 結
売 上 総 利 益	△ 2,571	△ 1,091	2,559	49,380	5,451	54,831
当 期 利 益 (親会社の所有者に帰属)	1,559	1,086	13,896	63,118	△ 12,671	50,447
資 産 合 計	△ 47,652	65,038	△ 3,543	△ 24,772	21,039	△ 3,733

## b. 1株当たり情報

当期及び前期における、親会社の所有者に帰属する基本的1株当たり当期利益及び希薄化後1株当たり当期利益の計算過程は次のとおりであります。

	当 期 (平成24年3月期)	前 期 (平成23年3月期)
分子(百万円) :		
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	250,669	200,222
分母(株) :		
基本的加重平均普通株式数	1,250,089,967	1,250,060,473
希薄化効果の影響 :		
ストック・オプション	793,438	602,278
希薄化効果の影響調整後加重平均普通株式数	1,250,883,405	1,250,662,751
1株当たり当期利益 (親会社の所有者に帰属) (円) :		
基本的	200.52	160.17
希薄化後	200.39	160.09

## c. 重要な後発事象

該当なし